プリンセス

小公女セーラ

第43話

『幸せの小包み』

（仮）

AR台本

企画
制作　日本アニメーション株式会社

プリンセス

小公女セーラ

第四十三話　『幸せの小包み』（仮）

登場人物

セーラ……………島本須美
ミンチン…………中西妙子
アメリア…………梨羽由記子
ラビニア…………山田栄子
ベッキー…………鈴木みえ
ピーター…………坂本千夏
ジェシー…………飯塚はるみ
ガートルード……佐々木るん
アーメンガード…八百板万紀

ロッティ……渡辺菜生子
ジェームス……郷里大輔
モーリー……向殿あさみ
ドナルド……堀江美都子
馭者……

カメラ	画面	音声
1	雪のロンドンのフカン PAN→ 雪の日の雑踏 テーマ曲「花のささやき」	
2	雪の街 輪だちの跡がいく筋も見える 沢山の人が往き交っている ダブルデッカーが行く SLIDIMG	
3	往き交う人々 紳士、叔女 セーラ、マッチ売りの姿でやって来て行き交う人にマッチを示すが売れない	
4	別の人が来る セーラ、振り向いて声をかける が、無視して通りすぎる帰人	
5	情け容赦なく降り積む雪	

6	セーラ、マッチを売ろうとするが売れない　結構大勢の人が行き交う		
7	セーラ、大きな声で売ろうとする（奥を往き交う人々に）		
8	セーラの前を素通りする人々 セーラ、がっかりした様子でうつ向く		
9	マッチの山に降り積もる雪 それを手で払う		
10	足元におちる雪のかたまり 足は雪の中に半分うまっている		S・E（バサ　バサ………）
11	箱にかぶせた布をパタパタと、やって残った雪を払う		
12	歩くセーラの足元 ↘FOLLOW		S・E（ギュ　ギュ）

13	売り歩くセーラ →FOLLOW　セーラ 街の中を売り歩くセーラ		
14	FOLLOW↗　売り歩くセーラ		
15	奥へトボトボと人ごみの中へ進むセーラ		
16	足跡に降る雪		
17	建物の間 雪のない所に立っているセーラの足元　↑PANUPすると、手をこすり合わせて白い息をはきかけている		
18	その横顔UP　はく息がことさらに白い		セーラ　「フーッ！」
19	街 一台の馬車が入ってくる		

20	窓から見ているドナルド FOLLOW← あっとなって 姉と母、外を見る		ドナルド「あ、見て、見て、マ……!!」
21	T・B&PAN 相変らず売れないらしいが、通 行人に呼びかけるセーラ		
22	馬車の中 ドナルド、母達に説明する →FOLLOW ドナルド、御者に向かって叫ぶ		ドナルド「ね、ママ、あの子本当にマッチ売り の少女になったんだよ」 ドナルド「馬車をとめて！」
23	馬車、止まっている ドアがパッと開いて、ドナルド 地面に降り立ち走り出す		S・E（バン！）
24	通行人に呼びかけるセーラ しかし、通行人は行ってしまう がっくりとする　前の方を見て、 ドナルドに気付き、にっこりす るセーラ		セーラ「マッチはいかがですか？　雪の中で もよくつくマッチです……」 セーラ「まあ！」

25	ドナルド、笑い顔で立っている ポケットをさぐって、一ペニーをとり出して見せてから、渡す		ドナルド「……やっぱり君だったんだ……！ ……はい、これだけ」
	A・C		
26	セーラ、お金を受けとって、かわりにマッチを四箱渡してやる ドナルド、ぱっと向きをかえて馬車の方へ向かう		セーラ「まあ、有難う……はい、これ……」 ドナルド「じゃ、また買いに来るから頑張ってね！」 セーラ「ええ」
27	セーラ、体をおこしつつ礼を言う　ドナルド、ちょっとすべったらしい		セーラ「どーも有難う！　あ、気をつけて！」
28	ドナルド、おっととととなっている　体勢をたて直して、振り向き、大丈夫だともう一度手を振って再び向うへ		ドナルド「おっとっとと……へへへ……」
29	見送るセーラ		セーラ「フフフッ！」
30	馬車から母と姉が顔を出している　ドナルド、馬車に乗り扉を		

	しめる 馭者がムチを振る 馬車奥へ		馭　者「それっ！」 S・E（パシ！　カッポ　カッポ ガラガラガラ）
31	しばし見送っていたセーラ、手の中のコインを見ると、その時ピーターの声 顔をあげ下手を見る		セーラ「…………」 ピーター(off)「お嬢さーん……！」 セーラ「ん?!」
32	二階馬から降りる人、手前に走るピーター、やって来る		ピーター「お嬢さーま!!」
33	ピーターinして止まる セーラ、手にしていた一ペニーを見せる ピーターもその手をチラッと見るが、すぐまた、話し出す		ピーター「こんな遠くまで来ていたんですか……？」 セーラ「ええ…でも売れたのは、たったこれだけ……」 ピーター「……そんなことより、お嬢さん……。ちょいと厄介なことが起っちまってるんです」
34	セーラ「？」となって		セーラ「え……？　厄介なことって？」
35	頷くピーター		ピーター「ええ……とにかく俺ん家へ戻って下

	ピーター、行きかけるが、セーラは話がわからなくて、とまどっている		さい。さ、早く……」
36	セーラのポカンとした顔		
37	ピーターの家の前 ガレキの山に降り積もる雪 PAN→すると、家の前に辻馬車が停っている ピーターとセーラinして、ピーターは先に家の中へ入る セーラ、立ち止まっている馬車を見て止まる		
38	怪訝そうな面持で馬車を見るセーラ 声の方を見て頷き歩くセーラ		ピーター(off)「お嬢様ー!!」
39	セーラ、ピーターを見て、入ってくる　ピーター奥を見るように目くばりする　セーラも奥を見てはっとなって止まる		セーラ「………」 セーラ「ハッ!」

40	ピーターの父と話していたアメリア振り返り、立ち上がり乍ら		アメリア「セーラさん！」
41	驚くセーラ		セーラ　「アメリア先生!!」
42	うつむいていくセーラ アメリア、奥の部屋から出て来るなり、セーラの肩に両手をやって		アメリア「セーラさん、心配してたのよ、あなたの事を……院長先生がベッキーを問いつめて、やっとあなたがここにいるって判ったの……」
43	アメリア、体をおこして		アメリア「実はねセーラさん。院長先生が、あなたに学院へ戻るようにと……」
44	セーラ、えーっとなって顔を上げ、アメリアを見る　不安の色が走る		セーラ　「えっ!!　院長先生が……?!」
45	アメリア、頷いて、ニコニコし乍ら		アメリア「……。（頷き）それでこうして、私がお迎えに来たわけなの」

46	セーラ、困惑して目線をピーターへ		セーラ「……でも、私……」
47	ピーター、困惑してもじもじする 父の方を見やるピーター		
48	様子を見に来た父も困惑して、ただうつむくのみ アメリア、セーラにニコやかに話す		ピーターの父「………」 アメリア「さ、セーラさん、遅くなるとまた院長先生が……」
49	セーラ、うつ向き乍ら		セーラ「わ……私……」
50	「まさか帰ってくれないってんじゃないでしょうね」……？ という表情のアメリア 慌てて、セーラに懇願し始める		アメリア「……！ ……ね、ねえ、セーラさん、お願い！ あなたが帰って下さらないと、この私が院長先生に……」
51	アメリア泣声で必死に頼む セーラ、ピーターを見る		アメリア「ね、一緒に帰って下さるわね…！ お願い、セーラさん!!」 ピーター「お、お嬢さま……」
52	セーラのＵＰ ゆっくり目線落す		セーラ「………」

53	雪の中に止まっているハンサム馬車 エミリを抱き写真を手にしたセーラが、アメリアに付き添われて出てくる		
54	父とピーター出てくる　アメリア、セーラを先に馬車へ乗せようとうながす　しかし乗らないで立ちつくすセーラ		アメリア「さ、セーラさん」
55	ゆっくり振り返り、淋しそうに微笑むセーラ		セーラ　「はあー」
56	はっとなって、一歩前に出るピーター		ピーター「はッ！」
57	ピーターを見つめるセーラ アメリア、ピーターを見ていたが――セーラの背中に手をかけ乗るようにうながす ちらりとアメリアを見て乗り込む		

58	心配そうに見守るピーター		
59	駁者、フロントガラスを下ろす 飛びおりて後へ行く（ゆれる馬車）力なくうつむいて座っているセーラと見守るアメリア		
60	馬車の中のセーラ ゆれる馬車 はっとなって顔を上げるセーラ		ピーター(off)「お嬢様!!」
61	ピーター、馬車に手をかけ叫んでいる 馬車動き出す　はっとなって下るピーター		ピーター「……なにかあったら、きっとここへ逃げ帰ってくるんですよ!!」
62	淋しそうに力なく口唇をかんでいるセーラ 動いていく馬車 ピーターを見つめるセーラ 去って行く馬車を見送るピーター		
63	奥へ去っていく馬車		

	手前から走る馬車を追うピーター ター　転ぶピーター		ピーター「おじーょうさーま!! うわーッ!」
64	倒れたピーター、片手で体をお こし		ピーター「必ず必ずですよー! お嬢さーま!」
65	かすんでいく馬車 雪がさんさんと降っている		
66	学院の前 馬車やって来て止まる 降りる二人		
67	馭者にお金を渡すアメリア、　学 校を見上げているセーラ 馬車、去って行く セーラ、アメリアにうながされ 抱きかかえられるように入口の ドアへ向かう		アメリア「…………」 セーラ「…………」
68	エミリーをかかえ口唇をかみ、 目を落として歩くセーラ 肩に手をかけているアメリアの		

	手　FOLLOW→ 立ち止まりうなだれるセーラ 前に出ていくアメリア		
69A	アメリア、ノブをつかむ 後ろで立ちつくすセーラ		
69B	廊下 アメリアがドアを開けて先に入って来る　かぶりものをとって左手にかける　その間、セーラは立ちつくしている アメリア、少しもどって、セーラをうながす　セーラとともに中へ入ってきて、アメリア、ドアを閉める　ゆっくり手前へ歩くセーラ　あとに続くアメリア		S・E（カチャリ）
70	地下への階段からベッキーが石炭バケツを持って上がってくる途中でセーラに気付く		ベッキー「！……お嬢さま！」
71	セーラ、ハッと顔を上げ、立ち		

	止まる		セーラ「ハッ！ ベッキー!!」
72	石炭バケツをわきに置いて、セーラの方へ駆け寄る すでに、今にも泣き出しそうな表情で		S・E（ガシャ） ベッキー「お嬢さまァ〜〜〜〜 アーン！」
73	セーラに駆け寄り、顔を手でおおいかくして泣き乍ら声をつまらせた感じで大声で泣く しゃがみ込むベッキー		ベッキー「お許し下さいまし……。私、お嬢様の居所を問いつめられて、とうとう……」
74	泣くベッキー　涙をためている		ベッキー「グス……エーン、エーン」
75	セーラもベッキーの前にしゃがんで優しく声をかける そして、ふと上手階段の方を見やるセーラ		セーラ「いいのよ、ベッキー」
76	ラビニア達が階段踊り場で下をうかがっている　後の方には、他の生徒もいる　その中から、ロッティがかきわけるように降		ロッティ「セ…セーラママ!!」

	りてくる	
77	セーラ、目を輝やかせて立つ	セーラ「ロッティ……！」
	A・C	
78	セーラ立って、ロッティ駆け寄って来る やや遅れてアーメンガードin	ロッティ「セーラママ……!!」 アーメンガード「セーラ……」 セーラ「アーメンガード……！」
79	アーメンガード、涙を流して、うれしさに震えている	アーメンガード「うェ〜〜〜〜ん」
80	セーラにきつくしがみつくロッティ	ロッティ「うえ〜〜〜ん、うえ〜〜〜〜ん」 ←
81	セーラ、再びロッティに目をやる	（二人の泣き声）
82	アメリアも感動するがふと使命を思い出し、なんとなく申し訳けなさそうに	アメリア「……さ、セーラさん、院長先生がお待ちですよ」
83	セーラ、振り向いて、返事する	セーラ「……は、はい、アメリア先生……」

84	アメリア、セーラの肩をだくように扉の方へ向かう		
85	ベッキー、心配そうに		ベッキー「お嬢様…！」
86	アーメンガードとロッティも心配気に		二人「はあ!!」
87	下をうかがい見て、冷笑するラビニア達にT・U		三人「フフフ……」
105	スカートを握るミンチンの手 T・B PAN↗ アメリアとセーラが入って来らしい　ジロリと振り向くミンチン		S・E　（パチパチ……） S・E　（カチャリ……パタン……） アメリア(off)「お姉様……セーラさんを……」
106	セーラ、少しタジッとなる アメリア、軽く会釈して		ミンチン「お帰り……」
107	ミンチン、柳眉を逆立てている		ミンチン「随分探させて、余計な手数をかけさ

	108	109	110	111	112	113	114
	セーラ、慄然としてミンチンを見ている	ミンチン、しげしげとセーラを見つめて	ミンチン、まず体をセーラの正面に向け、ジワジワとセーラにつめよって行く	ミンチンを見あげるセーラ 口唇をかみしめ 微かに頷く	セーラの答に満足して ミンチン、少しアゴをしゃくる	セーラ、「え？」となってから 目線を下へ向ける	箱が置いてある
せてくれたものだね……」		ミンチン「ま、その件は、いずれシメシをつけるつもりだけれど……」	ミンチン「ところで……お前を連れ戻したのは、別に私がお前を許したからじゃないこと位、見当はついているだろうね」	ミンチンoff ←〜〜	ミンチン「よろしい……お前を迎えにやった理由は……これだよ」	セーラ「ハッ！」	

115	アメリア、少し近ずいてセーラに説明する　セーラ、茫然と見ている　ミンチンに言われて、近ずいて見るセーラ		アメリア「あなたが居なくなったあとで、誰かが玄関にそっとその小包みを……」 セーラ「……」 ミンチン「宛名が書いてあるから読んでごらん」 セーラ「……」
116	セーラ、少しの間見て、読みはじめる		セーラ「……屋根裏の……」
117	その宛名のＵＰ		セーラ(off)「右側の部屋の少女へ……」 ミンチン(off)「そう……」
118	ミンチン、あまりセーラを見ずに喋べる		ミンチン「屋根裏の右側の部屋と云えば、お前が寝起きしていたあの部屋だよ」
119	アメリア、後からのぞき込むように話かける		アメリア「ベッキーは左側ですものね。明らかにあなた宛に届いた小包なのよ。それで、あなたを探して……」
120	ミンチン、なんとなしもったいぶった感じで平静を装う　しかし一番知りたいことの質問には動揺がかくせない		ミンチン「ま、勝手に処分する訳にも行かないだろうからね……。何が届いたんだい？」

121	セーラ、自分にも分からない		セーラ「…………判りません」
122	ミンチン、そんなハズはないとついに平静を失ない、セーラにつめよるように セーラ、大きく首をふる ミンチンとアメリア、ウームとなって顔見合わす		ミンチン「ワカラナイだって?!」 アメリア「じゃ…じゃあ送り主は？」 セーラ「…………！」 ミンチン「心当りもないと云うのかい！」 セーラ「は、はい……」 アメリア・ミンチン「うーーん」
123	ミンチン、姿勢を正しつつ、ややすごみのある口調で		ミンチン「………。どうやら、知っていても私には云いたくないという顔つきだね…」
124	セーラ、ハッとなって見上げる		セーラ「はっ！」
125	ミンチン、キッとセーラを見すえると、さっと向きをかえ、つかつかとデスクの方へ向かう		ミンチン「フン!!」
126	ミンチン、ゆっくりと机の方へ向かう		

127	何だろうと見る二人 セーラ、ゆっくり立つ		
128	ミンチン、左手で引き出しをあけて、右手で何やらつかむ		
129	ミンチンの後姿　中のものをとり出して引き出しをしめる 振り向いたミンチンの手にキラリと光るナイフ！		
130	セーラ、ギョッとなる		セーラ「はっ!!」
131	アッとなるアメリア		アメリア「あっ?!」
132	ミンチン、今度は早めに歩いて来て、テーブルと椅子を回り込んで、おもむろにテーブルの上にナイフを置く		
133	机に置くナイフ A・C		ミンチン(off)「開けてごらん」
134	セーラ、茫然と机の上のナイフ		

カット	画面		台詞
	を見る セーラ、ギクッとなってミンチンに向く		セーラ「…………」 ミンチン(off)「何をしてるんです！」 セーラ「はっ!!」
135	ミンチン激しく怒鳴る		ミンチン「私の前で開けてみせるんです!!」
136	セーラ、おびえて返事する		セーラ「!!……は、はい」
137	エミリーを椅子の上に置いてからナイフを取り、再びしゃがんでナイフでひもを切りはじめる ミンチン、手前にしゃがんでのぞく　ナイフは適当な所に置いて包装紙に手をかける		
138	見守るミンチン		
139	ゴクッとつばをのみ見るアメリア		
140	セーラ、箱のふたに手をかけて持ち上げてセーラ自身もびっく		S・E（ゴト……） セーラ「はあッ!!」

	り、息を呑む　その拍子にフタが手前へすべり落ちて中がよく見える	
141	ミンチン、ビックリして目をむく	ミンチン「はーッ!!」
142	アメリアもビックリ	アメリア「お、お姉様!」
143	美しい服や靴や下着、その他、色々が見える	ミンチン(off)「こ、これは……」
144	ミンチン、箱のかたわらにしゃがみ込み、少々ためらいつつも服を摑み出す アメリアもそっと手をのばす	ミンチン「まぁ………」
145	アメリアが手前に引き寄せたものは美しいスリッパ 目パチあってからミンチンに向く	アメリア「……お、お姉様」
146	そのお姉様はさらに下着みたい	ミンチン「まあ……!!」

	なのをひきずり出して、アメリアに見せる		
147	目を丸くして驚き、アメリアも帽子の入った箱を見せる		アメリア「はぁー」
148A	驚き合い、姉妹と箱を見つめて唖然としているセーラ		
148B	セーラが一番驚いている		セーラ　「まあ……」
149	ドアの外にはりついて、様子をうかがうラビニア達　T・B		
150	階段登り口には、アーメンガードとロッティ　他の子供達も数人上の方からうかがっている　F・O		
151	洋服を持って目の前に持って来るアメリア		アメリア「……まあ……なんてすばらしい…！」
152	見つめるミンチン		

	ミンチン、手をのばして服の裾をとり見つめる セーラも驚きの目で見上げる なめるようにして見つめるミンチン		
153	洋服から手を離すミンチン アメリア、ソファの方へ行き洋服を置く		
154	起き上がるアメリア 目を丸くして		アメリア「お姉様！ みんな豪華な仕立てですわ……」
155	テーブルの上の文箱、帽子の箱、手袋、スリッパ等を見つめる、セーラ		アメリア(off)「それに靴下も下着も」
156	ミンチンに近づいて来るアメリア（テーブルの方を見乍ら）		アメリア「みんな本物の絹ですわ……」
157	箱の中		

158	ソファに置かれている洋服		
159	見つめるミンチン ピリピリ動く眉　ゆがんでいく 口唇　胸の前に合わされた手が 強く握られた瞬間、低く鋭く セーラを見すえるミンチン		ミンチン「セーラ！」
160	はっとなって見上げる		セーラ「ハッ！」
161	じっとセーラをにらむミンチン		ミンチン「……これでも誰がこれを送ったのか、 心当りもないと云い張るのですか」
162	困惑した表情のセーラ		セーラ「は……はい……」
163	じっと見据えるミンチン 握りしめる手 T・U		ミンチン「……そう……それじゃ仕方ない。… …この贈物が本当にお前あてに送られ て来たのかどうか、はっきり確める必 要があります……さ、着てごらん」
164	驚く		セーラ「はッ！」
165	ミンチン、厳しくセーラを見つ		ミンチン「……本当にお前あてなら、寸法も合

	めて		う筈です……」
166	困り切った顔のセーラ 椅子の洋服、机の上のものを見る		
167	はらはらしているアメリア にやりとするミンチン		ミンチン「…もし合わなかったら…お前のものじゃないとして処分するから…そのつもりで…！」
168	口許をきゅっと真一文字に結びうなだれるセーラ		
169	うす笑いを浮べて見つめるミンチン　T・U		ミンチン「フフフ、さ、早く着てお見せ！」
170	じっとうつむくセーラ		
171	ソファの上の洋服とエミリー		
172	T・B　立ちつくしたままの三人		
173	様子を窺っているアーメンガー		

	ドとロッティ	
174	扉に耳を当てて窺うガートルード、ジェシー、そのそばにラビニア　はっとなって飛びのく三人 扉開いて、手に服や靴をかかえて出て来るセーラ　扉閉る 振り返り、はっとなるセーラ	S・E（ガチャーン!!） 三　人「ハッ!」 セーラ「ハッ!」
175	ニヤリとするラビニア	ラビニア「フフッ!」
176	セーラ、手に服や靴をかかえもって眺め回す セーラ、静かに応接室の方へ行く――見送る三人	
177	セーラを見送る一同 セーラ、応接室に入っていく	
178	茫然と見送っているアーメンガードとロッティ	

179	見送っていたラビニア達、怪訝 そうな表情になる	
180	広げられた服を渋面を作って見 乍ら歩き回るミンチン	
181	箱を漁っているアメリア 奥をミンチン out して行く アメリア「?!」となって服の間 から紙片を取り出す 入ってくるミンチン アメリア、姉の方に紙片を見せ ながら	アメリア「お姉様……手紙が入ってますわ」
182	振り向くミンチン	ミンチン「手紙だって?!」
183	立ち上がるアメリア、ツカツカ と寄ってくるミンチン 手紙をのぞき込むようにする 二つ折りにした紙片を拡げ読む アメリア	アメリア「エエ……」 アメリア「これは普段着です。必要な服はあと でまた送ります」
184	不満気になじるような聞き方を	ミンチン「……うーん、それだけかい」

	185	186	187	188
するミンチン ミンチンを見るアメリア 考え込むように目線をそらすミンチン 窺き見るようにミンチンを見るアメリア チラリとアメリアを一瞥して、ギューとゆがむ口唇 くるりと背を向けるミンチン、歩いて窓の方へ（out）	A・C 茫然として見送るアメリア 一度目を落し考える ――目を上げて身をのり出すようにして	ミンチン、アメリアをちらりと意識して	アメリア	目は後のアメリアを見るように
アメリア「ええ……それだけですが……」 ミンチン「うーん……」 アメリア「……でも、お姉様、こんな高そうな服を普段着だなんて……送り主はきっと相当なお金持ちですわ……」	アメリア「ね、お姉様、もしかするとセーラさんには、今まで判らなかった大金持の (off) 親類でもいたのでは……？」	ミンチン「なんですって?!」	アメリア「……その大金持ちの親類が、急にセーラさんの居所を知って……」	アメリア(off)「それで、こんなおかしな方法で贈

	渋面を作っているミンチン 除々に目は元に戻っていく—— 胸の前に組んだ手に力が除々に加わり——	物をして来たんじゃないでしょうか？」 ミンチン「まさか……」
189	前に出てミンチンの方へ歩むアメリア	アメリア「でも親類の中には時々風変りな人がいるものですわ。ことにお金持で独身のおじ様などと云うと……」
190	ギュッと手を握りしめてこねる PANUP↑　口許をゆがめるミンチン	アメリア(off)「傍に子供を置きたがらないくせに親類の子を遠くから援助するのが愉しみ、なんて人が」
191	ミンチンをのぞき込むように話すアメリア ゆっくりとアメリアの方を見て吐き捨てるように アメリアの傍を離れていくミンチン	アメリア「よく小説なんかにも……」 ミンチン「ばかばかしい！」
192	手前に歩いて来る 不満気に上目使いにミンチンを見るアメリア——	ミンチン「……小説の読みすぎです！」 アメリア「……でも……」

	キッとなって振り返るミンチン 直立不動でミンチンを見るアメリア		ミンチン「アメリア！」 アメリア「はっ」
193	にらみつけるミンチン 手前、テーブルの方を見る		ミンチン「……私たちが、今確めねばならないのは……」
194	テーブルの方へ歩いてくるミンチン　椅子に手をかけ眺め回すアメリア、上目使いにミンチンを目で追う 返事するアメリア		ミンチン「この小包が本当にセーラの所へ来たのかどうかだけです！」 アメリア「は…はい、お姉様!!」
195	残った片方の手を椅子にかけ握りしめテーブルの上をにらみつけるミンチン		
196	ランプに映るミンチンの渋面 うっとなって扉の方をミンチン		声　「（子供達の嬌声）」 ミンチン「ハッ！」
197	見とれ感嘆するロッティ		ロッティ「……ファー、ステキー！　セーラママー！」

198	見ほれるアーメンガード	アーメンガード「ほんと……！　まるでプリンセスよ!!」
199	恥ずかしそうに微笑むセーラ	セーラ「有難うロッティ、アーメンガード」
200	セーラを囲む生徒達とそれを離れたところから見つめるラビニア達三人 どっと笑う一同・ 一同、扉の方を見る	声「よく、似合うわセーラー」 「本当！……うらやましいわー」 「うらやんでも、あんたじゃだめよー！」 「ハハハフフフ……（一同）」 S・E（扉の開く音）
201	院長室から出てくるミンチン	
202	ミンチンの方に振り返った生徒達、左右に散る 前に出てくるセーラ	
203	扉をしめるアメリア 茫然と見つめるミンチン アメリア、振り返り見て、感嘆の表情になる	アメリア「まァー!!」
204	ベッキーも見とれる——	

	セーラ、スカートをつまみ一礼する		
205	優雅に膝をかがめるセーラ 起き上がる		セーラ「……着がえて参りました……院長先生！」
206	茫然と見つめるミンチンと感嘆の表情で見つめるアメリア 顔を見合わせてからアメリア一歩前に出て		アメリア「あつらえたみたいにぴったりですわ……!!」
207	不承不承に頷き顔を戻す T・U　口許だけに微笑が浮ぶ		
208	はずかしそうに微笑むセーラ		セーラ「はあ」
209	顔を見合わせたり頷き合う生徒達、感嘆と羨望のまなざしで、 セーラを見る		
210	ベッキー、地下へ行く入口のと		

	206	.207	208	209
ころで笑みを浮べて見つめる	見とれるアメリア、対称的に口がゆがんでくるミンチン 肩がキリリとつり上がると同時に前にツカツカと出ていくミンチン　はっとなり身をのり出すアメリア	襟ぐりを調べるミンチン 唖然とした顔でミンチンを見るセーラ 怒った様な顔でセーラの手を上に上げさせるミンチン	A・C 袖口を調べるミンチン 腕をぴんと延させて長さを調べる　眺め下ろして、一層の渋面になっていくミンチン	out していくミンチン セーラの後ろに回り両腕を上げさせて脇を調べる——
	アメリア「ハッ！」			

	しゃがんでいくミンチン		
A・C			
210	しゃがんで袖丈を引っぱるようにして調べる 「ぴったりの様だ!」と悟り渋面を作りひざの上に手をおき、スカートをにぎりしめ、下からセーラの顔を見上げる		
211	眺め感嘆の表情で		アメリア「……あつらえたみたいに、ぴったり……!」
212	にっこり微笑むセーラ		セーラ「はあ!」
214	口惜しそうにうなだれスカートを握りしめるミンチン うなだれるミンチン―― 顔を上げる――引きつったような笑みを浮べ猫なで声で 立ち上がっていくミンチン		ミンチン「……セーラさん……」
215	後斜め下を見るセーラ 立ち上がっていくミンチン、		セーラ「ハ…ハイ」

	セーラの前に立ち愛想よく笑みを浮べて		ミンチン「どうやら……あなたには、とても親切にして下さる方がいるようですねぇ」
216	やや困惑した表情で ミンチン、手をセーラの肩におき		セーラ「そ…そんな……」 ミンチン(off)～(on)「いいえ……」
217	ミンチン、やさしくセーラを覗き見るようにやさしく話かける にーと微笑むミンチン		ミンチン「話たくなければ……黙っていても結構よ……とにかくあなたは今まで同様、この学院で暮らすことを許してあげましょう」
218	驚くセーラ		セーラ「まあー!」
219	顔を見合わせ笑い合う者 生徒一同、喜びと驚き—— 抱き合い顔を見合わせるロッティとアーメンガード		生徒達「(アドリブ)はあー! よかったわね etc」 ロッティ・アーメンガード「はあ!」
220	にこにことするベッキー		ベッキー「はあーッ!」
221	にこにことして前に出てくるア		

メリア　ミンチン、アメリアを
見る二人、微笑み合う
ベッキーの方を見るミンチン

振り返りベッキーを見るセーラ
笑っている
一礼して身を翻して去るベッキー
ミンチン笑顔を見せ乍ら扉の方
へ向かう（愛想たっぷりのミン
チン）
セーラ、ミンチンの方を見る

ミンチン・アメリア「はあ」
ミンチン「ベッキー！」
ベッキー「はい……院長先生」
ミンチン「ジェームスをお呼び！」

ベッキー「はい、ただいま…!!」

222

ミンチン、自ら扉を開けて、に
っこりとして

ミンチン「…お入りなさい」

223

アメリア、セーラの傍にいき、
にっこりとして、肩をだき、扉
の方へセーラをうながす、セー
ラ笑顔でアメリアを見つめ、扉
の方へ歩く　後から続くアメリ
ア、セーラ、ミンチン、アメリ
アの順に入っていき扉しめられ
る

――間――

セーラ「はあ！」

見送っていた生徒達、顔を見合わせて、ささやき合う
ロッティとアーメンガード扉の方へ走る

生徒達　「（アドリブ）」

224

飛び上がり喜こぶロッティ
微笑して見つめるアーメンガード
ロッティ、アーメンガードを振り返り見上げてにっこりと大きく頷き　抱きつく

ロッティ「ワーイ、ワーイ…ワーイ、またセーラママと遊べるんだ!!」
アーメンガード「よかったわね…ロッティ」
ロッティ「うん！」

225

喜こび走ってくる生徒達
手をとり喜こび合う
後にいるラビニアとジェシー、横目で喜こぶ生徒達を見る――
ラビニア、プイと顔をそらす

生徒達　「（アドリブ）」
ラビニア「フン！」

226

ジェシー、ラビニアの方を見て
（ヒソヒソ声で）
チラりとジェシーを見るラビニア、小さく頷く　ガートルード
大きく頷き

ジェシー「驚いたわね、ミンチン先生のあの変り方」
ガートルード「……うん…きっと誰かがセーラに遺産でも残してる事が判ったのよ」

227	勢込むジェシー前に出て 不満気な表情で二人から離れる ラビニア 大きく頷くジェシーに、ガート ルード近づく 二人、はっとなってラビニアを 見る		ジェシー「それに、あのセーラの高そうな服！」 ガートルード「私、セーラには、きっといつか 変った事が起こると思ってたわ……だ ってあの人自身がすごく変ってるんで すもの」 ラビニア「やめてよ！」 二　人「はッ！」
228	ツンとしているラビニア		ラビニア「……セーラの事でそんなに騒ぐなん て、あの子をいい気にさせるだけだわ」
229	困ったジェシー、ガートルード ラビニア、イヤミッたらしく言 う 手前に歩くラビニア 顔を見合わせる二人		ジェシー「だって、ラビニア……」 ラビニア「フン……きっとまた、セーラの前に ダイヤモンド鉱山でも表われたんでは ……幻のね……さ、行きましょう」
230	ラビニアを見つめる生徒達をち らりと見つ階段を登って行くラ ビニア　慌てて後を追うように 登っていくジェシー、ガートルー ド（out）		

231	外は雪が降っている ミンチン、にこにこして	ミンチン「それから、今日はもう台所の仕事は しなくてもいいですからね」
232	赤く燃えるダンロの炎 セーラの後に立つアメリア微笑 してセーラを見る 二人扉の方を見る	セーラ「はい、院長先生……」 S・E（ノックの音） ミンチン(off)「お入り……」 S・E（扉の開く音、閉じる音）
233	扉をしめて（手に帽子をもって いる）ミンチンに近づき頭を 下げるジェームス	ジェームス「お呼びだそうで……」 ミンチン「セーラさんが今迄通りここで」
234	セーラの方を見て怪訝そうに頷 くジェームス ジェームス、生返事して	ミンチン(off)「暮すようになったから、屋根裏部 屋を住めるようにしておあげ」 ジェームス「へ？……へぇ…承知致しました」
235	三階廊下の隅で寝ているシーザー 耳がピクンピクンと動く やおら起き上がり大きくのびを	

カット	内容		台詞・音
	するしばらくして、階段の方窺い見る		S・E（足音）
236	箱の上に大工道具をのせた、ジェームスが昇ってくる 続くセーラ		
237	手前に歩いて来るジェームス 昇って来るセーラ、にっこりとして下を見る PAN・DOWN↓ 足にまとわりつき鳴くシーザー		シーザー(off)「ニャ〜!!」 セーラ「シーザー！」
238	扉の前に行き、振り返るジェームス　フンといった顔付きで見る		ジェームス「フン！」 シーザー(off)「ニャーゴ、ニャーゴ」
239	甘えるシーザーのノドをやさしくさするセーラ		セーラ「……元気だった…シーザー!!」
240	雪が降っている 扉が開いて箱をもったジェームス入ってくる		

241	入って来て、ベットの前に箱を おろすジェームス 起き上がり寒そうに手をこすり 首をちぢめて 入口の方を見て 箱の上の釘抜きをもって机の方 へ行く　机の上に釘抜きをおい て机に手をかけ手前引く		ジェームス「う……冷えるなあ……」 S・E　（足音）
242	入って来るセーラ はっとなって走って ベットにエミリーと写真を置い て　机を引いてくるジェームス 急いで机の傍にいき手伝うセー ラ　上を見て止まり、セーラに 命ずるジェームス セーラ、走ってout ジェームス、机に足をかけて昇 る		S・E　（机を引き出す音） ジェームス「よーし、椅子だ……」 セーラ　「ハイ……！　ジェームスさん！」
243	椅子を持って机の方へ歩むセー ラ		

244	セーラ、ジェームスに椅子を手渡す　ジェームス受け取って		ジェームス「おう……!!」
245	A・C 手で椅子を支える ジェームスの足が椅子にのる 見上げるセーラ　椅子の足を支えるセーラ		
246	釘抜きをもって窓にとりつくジェームス、ギュッギュッと抜き始める　力を入れて乱暴に仕事をする		ジェームス「勝手に出たり入ったりするから… つまらェ用事が……」
247	見つめていたセーラ、口唇をかみ、うつむく		ジェームス(off)「増えるばかりだー!」 S・E（ギューギュー　ギーギーギー）
248	板に力を入れ引き抜くジェーム、ス　はずれる板 板を脇にかかえて下りるジェームス　outする 板のとり払われた窓 外は雪が降っている		S・E（ギーギー、ギッキー）

249	メルー家の出入口を荒々しく、 引きはがすジェームス 立ち上がり、セーラに向き直り		ジェームス「さあこれで元通りだ。文句はある めぇ……」
250	ジェームス、テーブルの上に置 いた板を持って出ていく 見送るセーラ		セーラ「……すいません……」
251	にくにくしげに振り返り見る、 ジェームス吐き捨てるように 荒々しく扉をしめる ドタン!!		ジェームス「……フン!」
252	凝っと見送っていたセーラ、大 きく溜息をついて 力なくベットのところへいき、 手をつきうなだれる		セーラ「フーッ!」
253	うなだれているセーラ はっとなって顔を上げるセーラ さっと喜びの色が浮ぶ		S・E（メル一家の鳴き声） セーラ「はッ!　はあ、メル!」

254	チビとメルが出てくる 母と他の仔は穴からのぞいている セーラ急いで来る 全員外へ出て来るメル一家		セーラ「まァ……しばらくー！　みんな元気そうね……よかった……！」
255	にこにことして語りかけるセーラ		セ　ル「メル……また、あなた達と一緒にここで暮せるようになったのよ……」
256	尾を振り、手をこすり合わせたりしているメル一家―― チビは飛びはね、よろこんでいる		
257	微笑しているセーラ		セーラ「……よろしくね……」
258	夜の街 ガス灯が灯って、またたく―― 雪が降っている		
259	驚いている二人		モーリー「な、なんでございますって……？　それじゃ、セーラの毛布を返してやれと……」

260	大きく頷くミンチン 戸棚の方へ近づくミンチン	ミンチン「その通り……毛布ばかりではありません……」
261	二人、ミンチンを目で追う	ミンチン(off)「……あなた方がセーラの部屋から取り上げた」
262	戸棚の食器を指の先でさわり、一つ点検しながら	ミンチン「食器類を全部あの子に返すのです」
263	ジェームスとモーリー顔を見合わす　モーリー、「ジェームスが言うのよ」というようにあごでしゃくりジェームスをうながす はっとなって、うつむく二人	ジェームス「……ですが……勝手に処分しておいて良いと云われたのは、院長先生で……」 ミンチン「お黙り！……」 二人「はッ！」
264	ミンチン、二人を見つめていたが窓の方に歩いていく 止まり、窓外を見るミンチン	ミンチン「……セーラの後ろには、有力なだれか保護者がついている事が判ったんです」

265	外を見つめるミンチン ぐっと口唇を口惜しそうに噛む ミンチン		ミンチン「……毛布も食器類もいえ、あの屋根 裏の豪華な食事も、きっとその保護者 が入れていたに違いないんです！」
266	ジェームスとモーリー、うつむ いていたが顔を見合わせ、ミン チンの方を見る		
267	外の降る雪を眺めているミンチ ン 振り返るミンチン、手前に来て		ミンチン「いいですね。セーラを今までのよう にメイド扱いにしてはなりません」
268	茫然としている二人		
269	二人をじっと見つめるが、近づ いて来て立ち止まるミンチン ジロリと二人を眺めて―― くるりと背を見て扉の方へ（out）		ミンチン「……判りましたね……」 S・E　（扉の開閉音）
270	じっと立ちつくしていた二人 モーリー、頭をかきむしり口惜 しがる　ジェームス手にした帽		ジェームス「……く、く、く、なんてこった!!」

	子を握りしめ口惜しそうに帽子をたたきつけるジェームス		モーリー「院長先生も勝手だよ！」 ジェームス「……えい！」
	A・C		
271	床をたたく足――地面にたたきつけられる帽子		
272	外は寒々と雪が降っている		
273	屋根裏部屋のダンロの火が暖かそうに燃えている		
274	美しい食器と毛布の上に枕が二つ		
275	食器を前にして驚き見ている、セーラとベッキー		セーラ・ベッキー「はぁー！」
276	いやみたらしい顔でセーラを見るジェームスとモーリー二人、フンと宙を見て出ていく勢良く扉をしめる		モーリー「さあ、これで全部返したからね。もう私達を恨むんじゃないよ！」

277	278	279
茫然と見送る二人 ベッキー、近づいてセーラの傍に来る　頷くセーラ ベッキー、一寸考えてから、うかがうようにセーラを見て	セーラ、ベッキーを見て頷き セーラ、にっこりとして、ベッドの方に振り返る	ベッドに置かれている箱に手を入れて探すセーラ 可愛い文箱を箱の中から取り出すセーラ ベッキーの方を向いて文箱のフタをあける　中を見て微笑むベッキー
ベッキー「お嬢様。ようございましたね」 セーラ「私……ずっと考えていたの、ベッキー……私に小包を送って下さった方は、この毛布を下さった方と同じ方、なんじゃないかって……」 ベッキー「じゃ……あの、魔法の御馳走を届けて下さった……」	セーラ「ええ……私なんとかして、その方にお礼を云わなくては……」 ベッキー「でも一体どうやってその方に……」 セーラ「……そうだわ……あの小包に、紙とペンが……」	ベッキー「はあ！」

280	封筒、インク壺、ペン等が入っている		
281	文箱からベッキーを見るセーラ T・U セーラ、微笑を浮べながら		セーラ「私、手紙を書いてみるわ。……そしてその手紙をテーブルの上に置いておくのよ。うまくいくと魔法使いさんがその手紙をその方に届けてくれるわー」
282	喜びの表情のベッキー		ベッキー「まあー!! すばらしい考えですわー、お嬢様!!」
283	微笑むセーラ ランプの　がゆれている		
284	雪が降りやまぬ学院の裏庭 セーラの屋根裏のみ灯りがついている		
285	机に向かっているセーラ T・U		セーラN「その夜、私は、魔法使いさんに、心からお礼の手紙を書きましたー」
286	手紙を書くセーラ 中O・L 机に置かれている手紙		

	286B	286C	286D	286E	287
寝ているセーラ ひらひらと雪が舞いおちる	窓から舞いおりる雪 PAN・UP　ラムダスが下を 見つめている しばらくして、飛びおりる雪	床におりるラムダス、そのまま の姿勢でセーラの方を見ている ラムダス　立ち上がり、セーラ の方へ向かう	立ち上がりセーラに向かって手 を合わせて挨拶をするラムダス じっと見つめていたが部屋を眺 め回す	ベットの傍に箱と靴とスリッパ がある	にっこりするラムダス 机の方を見て?!　となる
					ラムダス「はあ」 ラムダス「ん?!」

288	机の上に置かれた手紙 ラムダス、机の前に立ち、凝っ と手紙を見ていたが、手をのば してとり上げる		セーラN「もし…明日の朝、この手紙がなくな っていたら……その事を心の中で念じ ながら手紙を置いたのでした」
289	机の方、歩き手紙を取り上げて 見るラムダス にっこりと微笑を浮べ大きく頷 き、セーラの方を見る		
290	寝ているセーラと傍のエ・ミリー の上に写真 F・O		

〈おわり〉